

仕事と生活の調和実現度指標について

仕事と生活の調和実現度指標は、我が国の社会全体でみた 個人の暮らし全般に渡る仕事と生活の調和の実現状況と、それを促進するための官民による環境の整備状況のそれぞれを数量的に測定し、その進展度合いを測定するものである。

個人の実現度指標

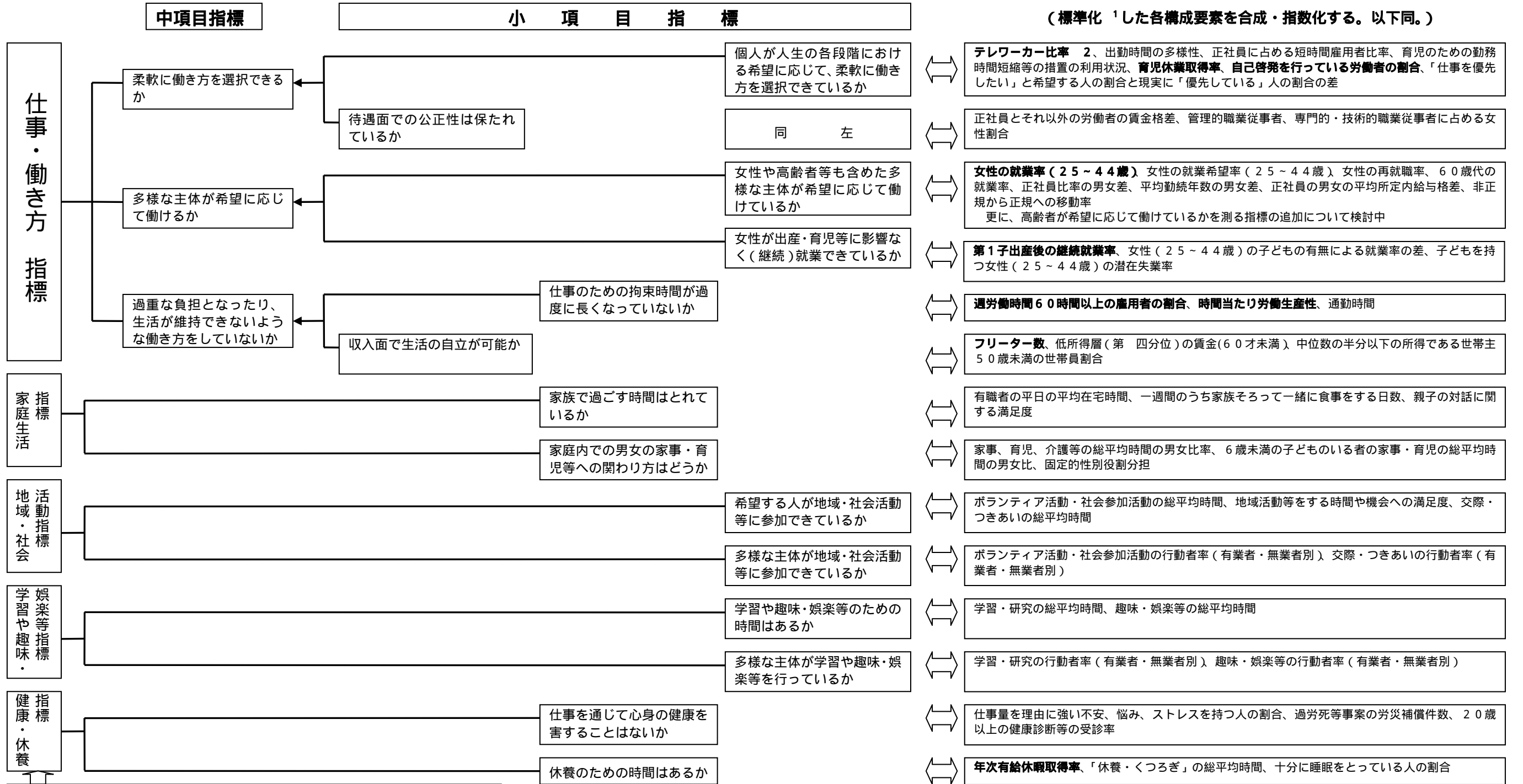
「個人の実現度指標」は、5分野毎に指標を測定する。各5分野別の指標は更に、中項目、小項目指標に分かれる。小項目指標を行動指針における仕事と生活の調和のとれた社会が実現するための3条件で整理することにより、3条件の状況を把握することが可能となる。なお、各指標は、本行動指針で定める数値目標のほか、仕事と生活の調和に関連する統計データ（構成要素）を合成することにより作成する。

仕事と生活の調和のとれた社会が実現するための3条件

就労による経済的自立が可能な社会	健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会	多様な働き方・生き方が選択できる社会
------------------	------------------------	--------------------

左記の指標を作成するための構成要素

(標準化¹した各構成要素を合成・指数化する。以下同。)



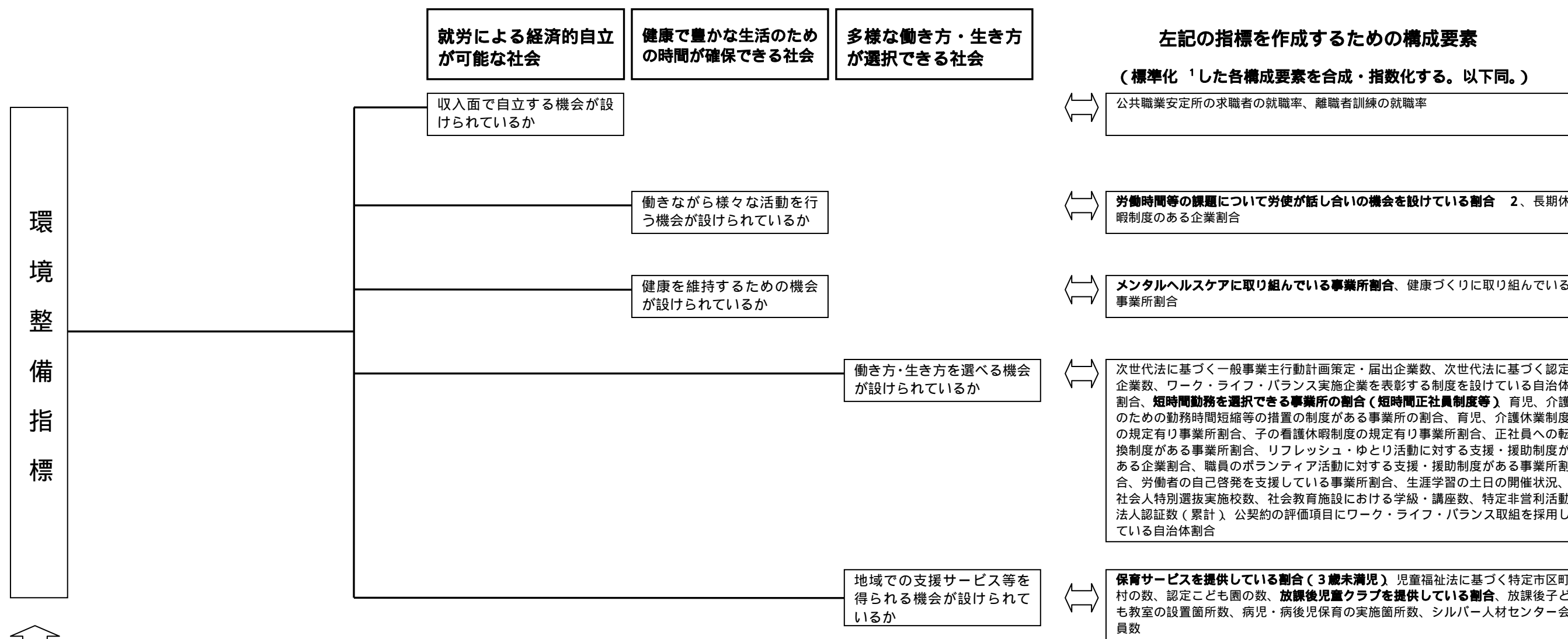
5分野、中項目及び小項目毎に合成指標を作成する。これにより、個人の実現度指標の進展度合いを測ることが可能となる。

1 「標準化」とは、単位や変動幅が異なるデータを同等に扱えるように調整すること。
 2 太字は数値目標(以下同)

環境整備指標

環境整備指標については、分野を設けず一つの指標として測定する。なお、同指標は、本行動指針で定める数値目標のほか、仕事と生活の調和に関連する統計データ（構成要素）を合成することにより作成する。

仕事と生活の調和のとれた社会が実現するための3条件



合成指標を作成する。これにより、環境整備の進展度合を測ることが可能となる。

1 「標準化」とは、単位や変動幅が異なるデータを同等に扱えるように調整すること。
2 太字は数値目標（以下同）